

令和 5 年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	新潟県高校生探究フォーラム 参加
期 日	令和5年11月18日(土)
会 場	アオーレ長岡
対 象	理数科2年生課題研究班1チーム(3名)
目 的	課題研究をまとめ、発表することで、表現力を育成するとともに、外部指導者から評価・助言されることで、その時点での研究の課題を把握し、研究を改善・深化させる。
内 容	<p>【午前】・基調講演                      講師：新潟大学創生学部教授 田中 一裕 様                      演題：「不確実性の時代における探究学習の意義」</p> <p>【午後】・ポスターセッション                      ・指導講評                      講師：新潟大学創生学部教授 田中 一裕 様                      新潟薬科大学薬学部教授 杉原 多公通 様                      上越教育大学学校教育学部教授 安藤 知子 様                      敬和学園大学人文学部教授 山崎 由紀 様                      新潟工科大学工学部准教授 小野寺 正幸 様</p>



長岡高校チームの発表①



ポスター



長岡高校チームの発表②

感想など

1.

探究フォーラムに参加する前は、私たちが長岡高校の代表として参加することに不安と心配しかありませんでした。SSRの課題研究は私が理数科を選んだ理由の一つでもありますし、研究自体もとても楽しいのですが、結果が出ていないので参加していいのだろうかと思っていたからです。しかし、田中先生のご講演で、答えが出ない、悩むなども探究学習の勉強であるとおっしゃっていました。私たちがまさに今その状況であるからこそすごく印象に残りました。私は今の状況に悩みすぎず、何を調べたいのかそこを明確にして実験していきたいと思いました。

午後のポスター発表では、予想よりも多くの方々の意見を聞くことができました。その中には、実験に対するアドバイスがたくさんあり、今後の研究にとっても役立ちそうです。私たちは、実験など高度な知識が求められることを行っています。だからこそ、もっと私たちが、自分自身の研究テーマについて知るということが大切であることに気がつきました。今までも、先行研究や実験で使う試液などについては自分たちで調べていましたが、知識が豊富な大学の先生方がたくさんアドバイスをしていたように、もっと研究の幅を広げるには更なる知識が、必要だと感じました。

2.

この体験を通して、自分の発表の能力を高めることができたのと、自分達の課題研究のアドバイスをもらったのでとても有益な時間になったと思います。発表の時、最初は緊張してしまって、大きな声ではっきり喋れずあまりうまくいかなかったのが、相手にしっかり理解してもらえるように何回も練習していくべきだったなと思いました。また、様々な他校の生徒や大学の教授が教えてくださったポスターのもっとわかりやすい表記の仕方や実験に対する有益な案をしっかりと生かして今後の課題研究や本発表に繋げていきたいです。

3.

私たちの今行っている研究は探究であり、答えのないものを探し続けているのだと感じた。ポスター発表をすることで、私たちの研究を伝える楽しさを実感することができた。今行き詰まっている研究について質問をいただいたりアドバイスをいただいたため、今後の研究に活かせる方法をたくさん教えていただくことができた。実際に生かして次回の中間発表までに研究を始めることができた。また、他の発表を聞いたことでそれぞれのチームの視点の違いがあたりしてとても興味深かった。この探究フォーラムに参加したことで多くのことを学ぶことができたので参加することができてとても良かった。